

當月○文化四年八月十九日深川八幡祭禮之節永代橋損所出來參り懸り候者、多人數水中江落入怪我人又は相果候者多有之由、右ニ付怪キ町家之者共引受、又は取片付ニも致難義、存命にて引取候分も療治手當不行届難義之者有之候は、町役人共無油斷相糺、町會所へ可申出候糺之上相當之御手當可被下様、右之趣御沙汰ニ而、早々可相觸候、以上、

卯八月

一可稼當人水死いたし候へば 鳥目五貫文

壹人ニ付

家族之内水死いたし候へば 鳥目三貫文

但二人以上は、壹人ニ付壹貫五百文宛相増候積

可稼當人怪我いたし候へば 鳥目三貫文

壹人ニ付

家族之内怪我いたし候へば 鳥目壹貫文

但二人以上、壹人ニ付五百文ヅ、相増候積リ

一八月十九日、永代橋損所出來、落入水死又は怪我いたし候者之内、困窮難義の者共、江町會所より御手當被下候分、左之通、

錢三百六拾四貫五百文

此金五拾四兩貳分、銀貳匁三分壹厘九毛、但金壹兩ニ付錢六貫八百八十文替

人數五拾六人、口數三十六口

内

可稼當人水死

拾八人

同怪我

五人

家族之内水死

二十三人